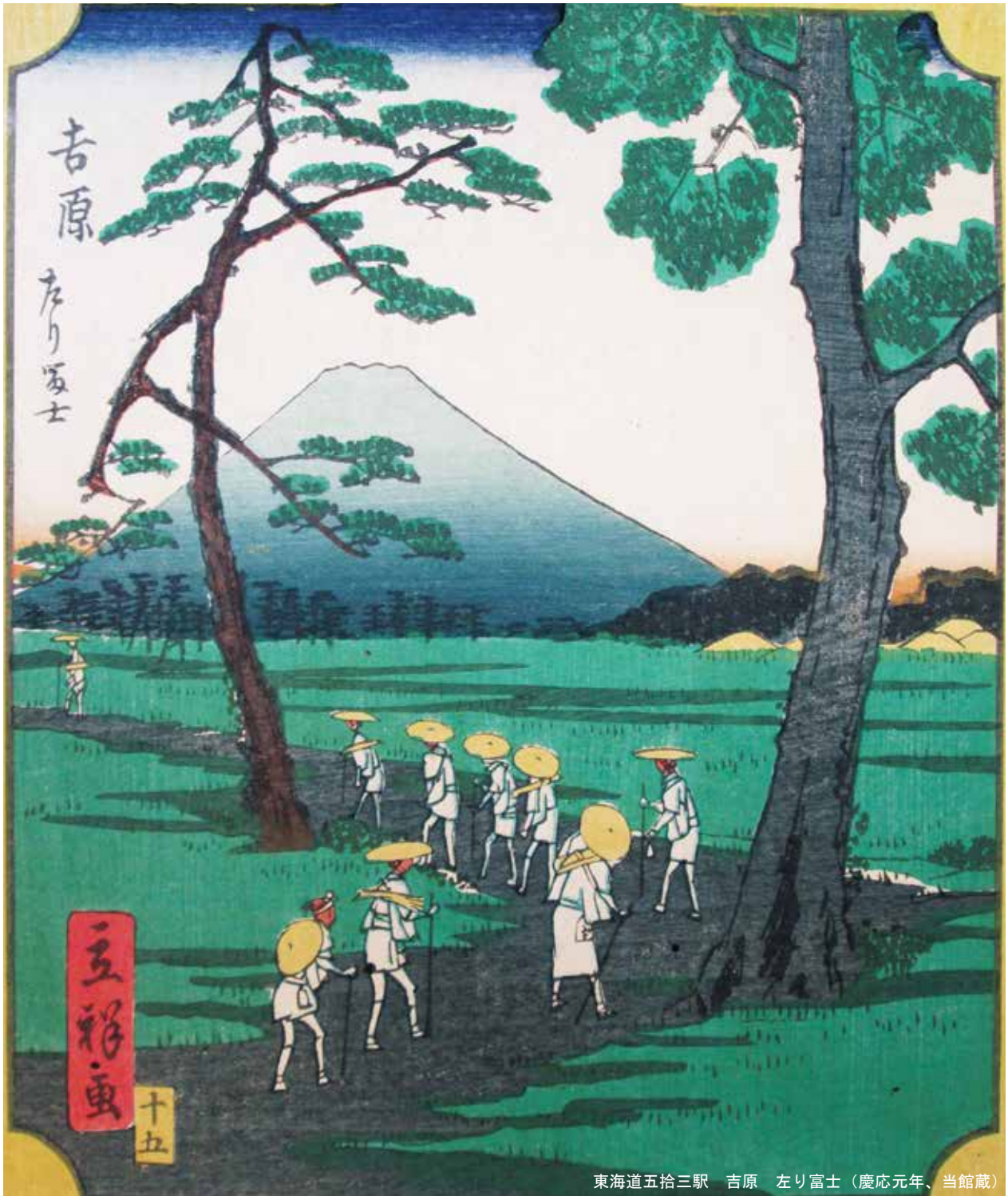
富士に生きる―紙のまちの歴史と文化―
富士市立博物館
Fuji Municipal Museum

博物館だより

2014
2.14
63号



東海道五拾三駅　吉原　左り富士（慶応元年、当館蔵）

富士山　世界文化遺産登録記念　テーマ展

富士山名品展

平成２６年１月２５日（土）～４月６日（日）

富士山世界文化遺産登録記念テーマ展

「富士山名品展」より

博物館では、古文書や民具、考古資料、美術工芸品など様々な資料を収集・保管しております。

これらは、市民のみなさんが家で大切に使ってきたものや、代々受け継がれてきたものを博物館に御寄贈してくださったものなどです。この資料の中には富士山に関係するものが多くあります。また、富士の麓にある博物館として、「富士山」に関する資料を積極的に収集もしてきました。

浮世絵や絵画に描かれた富士山。登山道や山頂を描いた絵図。富士山を撮影した古写真。煙管や刀の鐔、焼き物などの美術工芸品に装飾されたもの。昔から富士山への信仰やその美しさに魅せられ、題材として様々なものに使用されたと考えられます。また富士山の麓という環境のために、これらの資料が多く残ったとも考えられます。

この展示会では、館蔵品を中心に浮世絵、焼き物、美術工芸品、絵画、絵図、古写真の分野ごとに展示しています。描かれた富士山、装飾された富士山を各分野の視点からその魅力について紹介します。

Ⅰ　浮世絵

浮世絵には、東海道の宿場や名所を描いたものがたくさんあります。富士市周辺の吉原宿、原宿、沼津宿を描いたものに、富士山が街道の名所とともに描かれています。また、「富士川の合戦」や「源頼朝の巻狩」など富士周辺の歴史上のエピソードを題材としているものがあり、富士山を象徴的に描いています。

Ⅱ　焼き物

皿や鉢、徳利、杯など様々な焼き物に富士山が描かれています。その描かれ方も「染付富士見西行文皿」のようにゆかりの人物と描いている場合や、「染付富士田子浦文皿」など名所と描いているものもあります。

染付富士見西行文皿（江戸時代後期～明治時代、当館蔵）

冨士の裾野巻狩之図（弘化４年～嘉永５年、当館蔵）

Ⅲ　美術工芸品

館蔵の美術工芸品には、刀の鐔や目貫、笄などに描かれています。武士が携帯する刀の付属品にまで富士山に魅せられ装飾されていたことがわかります。武士だけではなく、だれでも持つ煙管にも富士山が装飾されていました。

富士飛鶴図鐔（年不詳、当館蔵）

Ⅳ　絵　画

時代に関係なく、多くの画家が富士山に魅せられ、描いています。この展示会では、郷土の画家の神戸麗山や柴山泰山の作品も紹介します。彼らは、京都に絵を学び、帰郷し富士山を描きました。

神戸麗山「富士山図」（安政４年、当館蔵）

Ⅴ　絵　図

富士山に関する絵図には、富士山への登り口が記されたものが多くみられます。これらは、富士登山への案内図だったと考えられます。これらの絵図には、登山道や登山口だけではなく、浅間神社などのゆかりの神社や、「冠石」、「人穴」など富士山の名所も描かれています。

富士山禅定図（江戸時代中後期、当館蔵）

Ⅵ　古写真

明治から昭和初期ごろまでの古写真を収蔵しています。農村風景と富士山や茶摘みをしている様子と富士山、浮島沼、今泉、柏原からの富士山など様々な風景や場所から撮影されています。これらに共通していることは、秋から冬にかけて撮られた写真が多いということです。雪景色の富士山を撮影したものと考えられます。

（井坂 武男）

富士と農家（明治時代、当館蔵）

富士山×絵葉書

～平川コレクションに見る富士の姿～

平成 26 年 4 月 19 日（土）～ 6 月 22 日（日）

今から約 100 年前の明治 33 年（1900）、郵便法の改定により、それまで認められていなかった私製葉書の発行が許可されました。それから 4 年後の日露戦争中に、当時の逓信省が戦争にかかわる画像を掲載した絵葉書を発行し、熱狂的な人気を集めたといいます。

以降、昭和初期にいたるまで、人々の間で絵葉書を送り、送られるといった文化が大いに流行し、多くの絵葉書が発行されてきました。

そのジャンルは多種多様で、各地の名所や観光地を題材にしたもの、俳優などの写真を題材にしたもの、画家がデザインを担ったもの、企業などが広告のために作成したもの、戦争や軍事にかかわるもの、皇室にかかわるもの、人々の日常的な生活を題材にしたものなど、当時の人々の関心を引くさまざまな事象が絵葉書の題材となりました。

その姿はまさに、現在の私たちがインターネットを介していろいろな情報を手に入れるように、絵葉書とは、当時の人々にとっての重要な情報獲得手段であったことがうかがえます。

一方で、絵葉書には、写真やイラスト、デザインなどの画像情報だけではなく、画像に対応したタイトルがつけられている場合や、その絵葉書の製作者や印刷者についての情報が記載されている場合があります。また、宛名面の体裁や消印からある程度の発行年代や使用年代を知ることができます。

小さな紙であるのにもかかわらず、多くの情報が詰め込まれた絵葉書は、まるでタイムカプセルのように、現在の私たちが当時の社会や文化を知るための貴重なメディアであるといえます。絵葉書がこのような特徴をもつゆえに、現在では、絵葉書の収集や研究が活発に行われています。

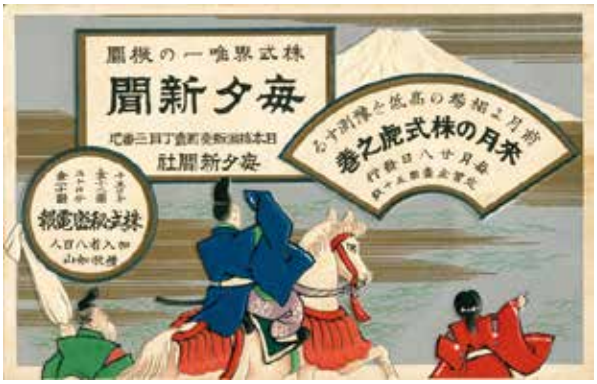
今回の展示会では、絵葉書の収集家や研究者により組織されている日本絵葉書会の理事であり、日本屈指の絵葉書のコレクターである平川義浩氏（兵庫県宝塚市在住）の膨大なコレクションの中から、富士山を題材にした絵葉書約 400 枚をお借りして、絵葉書の中の富士山の姿をご紹介します。

平川氏がこれまで収集されてきた富士山の絵葉書のコレクションは以下のように多くのジャンルに及んでおり、当時の人びとの富士山に対する興味や関心が非常に幅広いものであったことが伝わってきます。

① 干支と富士山
② 観光案内の中の富士
③ 外国で作製された富士山を題材にした絵葉書
④ 見立て富士（富士山を色々に見立てた絵葉書）
⑤ 広告や宣伝、記念事業に伴い発行された絵葉書に掲載された富士山
⑥ 子供たちと富士山を題材にした絵葉書
⑦ 富士山の写真を掲載した絵葉書
⑧ 匠技富士山（漆絵や寄せ木などで富士山を表現）
⑨ 乗り物と富士山
⑩ 日本橋から見た富士山を掲載した絵葉書
⑪ 富士山の年賀状
⑫ 富士山の便せん絵葉書
⑬ 富士山図を掲載した絵葉書
⑭ 富士山の登頂印が押された絵葉書
⑮ 富士山を題材にした浮世絵を掲載した絵葉書
⑯ 富士山の風景画を掲載した絵葉書
⑰ 富士山を舞台にした物語絵を掲載した絵葉書

平成 25 年 6 月に、富士山は晴れて世界文化遺産として登録され、富士山に対する注目がこれまでになく高まっています。この時期に、平川義浩氏のご協力のもと、明治時代から昭和初期にかけての人々の富士山に対する思いが込められた多くの絵葉書をご紹介することにより、ご来館いただいた方々に富士山に対する愛着や、富士山を大切にしたいという思いを醸成していただく機会をご提供することができればと考えています。

（井上 卓哉）



⑰より『毎夕新聞』（業平東下り、明治～昭和初期、平川氏蔵）

※挿図絵葉書の表題については、『』は表題がついているもの、「」は筆者が表題をつけたものを示す。

展示会で紹介する代表的な絵葉書（明治～昭和初期、平川氏蔵）

①より「馬と富士山」

②より『大宮町鳥瞰図』（吉田初三郎筆）

③より「人力車と富士山」

④より『富士山模型』
（婦人子供博覧会のパビリオン）

⑦より『東海道左富士』

⑧より「富士山と湖」
（薄く削った板に漆で描いたもの）

⑬より『富士山頂上図』
（富士山頂の様子を描いたもの）

⑯より「河合橋からの富士山」

⑨より「御召列車」

⑤より『全日本産業観光甲府大博覧会』

⑤より『富士山郵便局開始記念』
（コノハナノサクヤヒメと富士山）

⑥より「子供たちと富士山」
（年賀状として使われたもの）

富士市立博物館リニューアル構想の紹介（その1）

―基本計画と全体整備イメージ―

リニューアルの背景と基本構想　富士市立博物館は、昭和56年（1981）4月のオープンから数えて、平成26年(2014)で34年目を迎えます。その間に様々な展示企画や体験講座等を実施し、皆様に親しまれてまいりましたが、現在では施設の老朽化や収蔵庫不足、耐震工事の必要性等の様々な問題も浮上してきています。それを受け、当館では平成23年度にリニューアルの基本的な方針を取りまとめ、平成28年4月のオープンを目指し、現在展示設計の作業中です。今回は、気になるリニューアル計画の5つのエッセンスをご紹介いたします。

①新展示室「富士山とかぐや姫」の開設　世界文化遺産登録で盛り上がる富士山の信仰と、その富士山を舞台に繰り広げられるかぐや姫の物語について、六所家総合調査で発見された新史料「富士山縁起」を中心に紐解いていきます。

②常設展示室の充実化　お馴染みの常設展示室も、最新の研究成果をもとに展示資料を一新します。特に、東海道の要衝であるとともに、駿河東部―甲府間をつなぐ輸送路でもあった富士川に注目した新コーナー「富士川舟運と渡船」や、富士市域を襲った噴火や地震、津波・高潮を紹介する「富士の災害史」が新しい見所です。

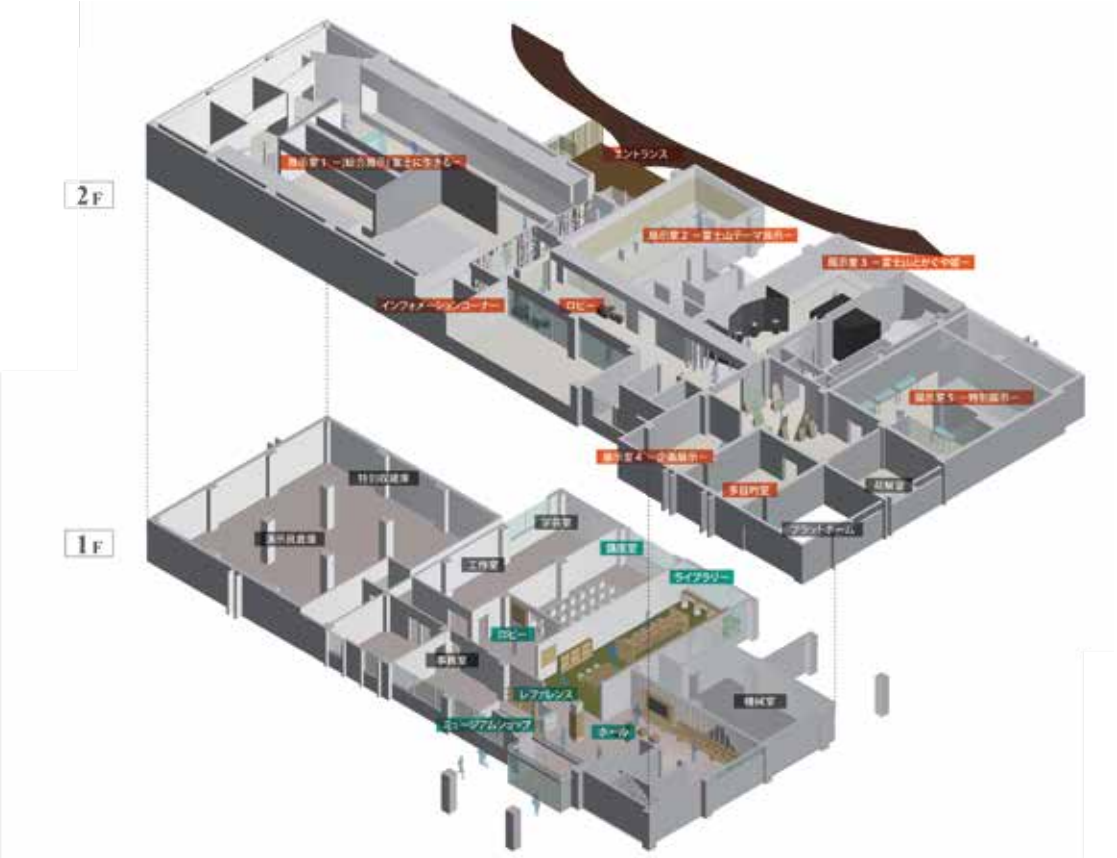
③ライブラリー・学習機能の新設　およそ8,500冊を数える蔵書から、選りすぐりの約3,000冊を配架した学習室を新たに作ります。そこには、映像資料や収蔵品データベースを閲覧できる映像ブースも併設されます。

④広見公園と一体化した“ミュージアムパーク”へ　指定文化財の建造物数では全国的にも有数の規模を誇る広見公園は、新しい園路や博物館2階への入口を設けることで、さらに洗練された“ミュージアムパーク”として生まれ変わります。

⑤外部収蔵庫の新設　近接地に外部収蔵庫を新設し、45,000点近い収蔵資料の効率的管理を目指します。

博物館だよりでは、今後もリニューアル計画の内容をご紹介していきます。

（藤村 翔）



リニューアル後の富士市立博物館本館イメージ

教育普及事業活動報告

博物館の日

はじめに

富士市立博物館では生涯学習の重要性が唱えられている昨今、展示事業とともに博物館来館者のニーズに応える場として様々な体験事業を行っています。

平成21年より原則毎月第一日曜日（1月を除く）を博物館の日とし、手漉きはがき作り、型染しおり作り、火おこし体験、博物館クイズのほかに月替わりの体験イベントとして様々な体験講座を開催しています。

企画段階

展示事業だけでは来館者数が年々減少していく中で、気軽に博物館に足を運んでもらうために、利用者とのコミュニケーションを充実させ地域住民・利用者の動向やニーズを取り入れていこうと考えています。

何度も足を運んでいただくということは、その空間が心地よいためであり、博物館が快適空間であるためには、娯楽的要素も必要となってきます。

楽しく学ぶ場を提供するために、「もっと気軽に博物館に触れていただき、予約無しで気軽に楽しめる」をコンセプトに、原則毎月第一日曜日（1月を除く）を「博物館の日」としました。

「博物館の日」の内容として博物館の展示に関係するクイズのほかに、富士市の基幹産業である紙と富士市で育まれた芸術文化を題材とした体験授業、何度も足を運びたくなる仕掛けとして季節感あふれる各種体験プログラムを用意することとしました。

講座内容

年間（計11回）行われる「博物館の日」では、通年の体験プログラムとして手漉きはがき作り、型染しおり作り、博物館クイズ、火おこし体験（マイギリ式）を行い、季節感あふれる体験プログラムとして菊花線香作り、藍の生葉染めハンカチ作り、張り子ダルマ作りなどを月替わりで行います。そのほかにも博物館らしい体験プログラムとして勾玉作り、鋳造ペンダント作り、木版刷り体験なども行っています。

講座当日

制作物の歴史の話を必ず取り入れ、楽しむだけではなく学ぶという要素を含めることで、子供だけではなく大人も興味を持って楽しんで学べる講座としています。

参加者のアンケートから

参加者からは「毎月楽しめる講座があって嬉しい」、「楽しく歴史について学習できてよかった」などの意見をいただき、講座を通して伝統芸術・文化についての楽しさや歴史を知ってもらうという当初の目的は達成できたと思われます。

体験事業の観点から博物館改革をしていく上で、本事業が何を目的とし、何を伝えるのかを把握し、参加者のニーズに沿えるよう改めて検討していきたいと思います。

（久保田 英聖）

菊花線香作り体験風景

勾玉作り体験風景

展示会案内

■　富士山世界文化遺産登録記念テーマ展　H26.1/25(土)～4/6(日)
富士山名品展

■　春のテーマ展　H26.4/19（土）～6/22（日）
富士山×絵葉書　～平川コレクションにみる富士の姿～

■　第53回企画展　H26.7/12（土）～10/13（月祝）
“富士山の下に灰を雨らす”～富士の噴火と古墳時代後期の幕開け～

■　テーマ展　H26.11/1（土）～H27.1/25（日）
富士山東泉院の中世　―六所家総合調査速報展―

■　テーマ展　H27.2/14（土）～5/10（日）
博物館30年のあゆみとこれから

子ども～一般向け体験講座、イベント

◆　博物館の日
毎月第1日曜日（12月は第2日曜日）※1月を除く

◆　陶芸歳時器
鯉のぼり作成　3月8日（土）9：30～11：30
申し込み日　開催月の第1土曜日　9：00～
電話受付及び本館窓口にて
対　象　小学生以上（保護者同伴）・一般
定　員　30名

◆　陶芸室自由開放日
日　時　毎月第2日曜日　9：30～16：00
申し込み　当日、本館受付にて（14：00迄）
対　象　小学生以上一般（中級以上の方）

◆　広見さくらまつり参加イベント
日時　3月29日（土）　※雨天順延3月30日（日）
広見さくらまつりにあわせて、当日入館無料。

また、スタンプラリー、学芸員による展示解説・ワークショップ、火おこしグランプリ、紙すき体験なども開催。

◆　かやぶき農家の癒しのおんがく会（旧稲垣家住宅）
各月（8月を除く）第3日曜日13：30～15：30入場無料
3/23（日）：富士ジュニアオーケストラ
4/20（日）：フルートアンサンブル
5/18（日）：クラリネットアンサンブル

◆　博物館まつり　5/18（日）

◆　和紙漉き込みうちわ作り　6/22（日）

◆　一閑張り入門　7/11（金）、7/18（金）、7/25（金）3回連続
午前の部9：30～　午後の部13：30～　※18歳以上対象

◆　ミニミニ埴輪づくり　7/21（月祝）9：00～12：00

◆　布ぞうり作り体験　7/26（土）9：00～11：30

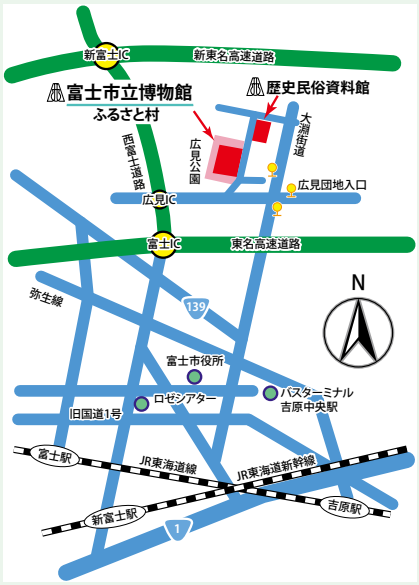
◆　かまどでごはん　7/29（火）10：00～13：00

※4月以降の講座については、ホームページやチラシ、広報ふじ等で募集日時をご確認の上、お申込み下さい。

チャレンジ陶芸体験風景

富士市立博物館だより　No.63

発行年月日　平成26年（2014）2月14日
編集・発行　富士市立博物館　Fuji Municipal Museum

住所　〒417-0061　静岡県富士市伝法66-2
TEL. 0545-21-3380　FAX. 0545-21-3398
HP.　http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/
E-mail.　museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間　4月～10月：9:00～17:00　11月～3月：9:00～16:30
休館日　月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12/28～1/5（年末年始）
入館料　大人100円（60円）小・中学生50円（30円）※（ ）は20名以上の団体料金
※「しずおかミュージアムパスポート」持参者は無料。
歴史民俗資料館（分館）　開館時間・休館日は本館に同じ　入館無料
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし 見学無料